

「^{ひとひと}峡南地域の未来をつくる男女 NET」が終了 大切なのは次のステップ

中央大学名誉教授 広岡守穂さん



「峡南地域の未来をつくる男女（ひとひと）NET」は、県の事業として、峡南地域を基盤とするメンバーが6月からぴゅあ峡南に集まり、地域課題について調査・研究を行いました。2月には成果発表会を行い全6回の事業は終了しましたが、9ヶ月間にわたってコーディネーターを務められた広岡先生に、本事業を振り返っていただきました。

成果物をつくる学習で人材育成をめざす

「峡南地域の未来をつくる男女 NET」の講座が終了した。2月16日に成果発表会がおこなわれ、その模様はUTY テレビ山梨の夕方のニュースで報道された。

講座の目的は人材育成だった。つまりエンパワーメントである。エンパワーメントには2つの要素がある。ひとつは自信をつけること。もうひとつはネットワークだ。ネットワークと自信をつけるにはどんな学習方法が良いか。それにはなんといっても成果物をつくるタイプの学習が有効である。

受講者は11人。開講時にA、B2班に分かれてもらい、どんな成果物をめざすか相談してもらった。

成果物で自信とネットワークをつくる

社会教育センターなどで学ぶ人は、講師の話を聞いて知識を深めようと考えていることが多い。だから成果物をつくってもらいますというとびっくりされる。知識教養を高めるタイプの学びは「承り学習」といったりするが、生涯学習では承り学習には限界があることが知られている。認識は変わるが一歩踏み出す力はつかないからである。あべこべに学校教育では圧倒的に知識教養を高める学びに重点が置かれている。読み書きや外国語や数学を修得することは

社会人として生きる上で必須である。少なくとも非常に重要だ。

さて、成果物はいろいろだ。女性の仕事おこしを調べてブックレットをつくる、エッセイを募集してコンテストを実施する、地元の農産物の販売店を開くなどなど。いろんなかたちがある。そして企画に取り組むあいだにネットワークができ、企画が完成したら自信がつくのである。

地域防災と女性区長についてのアンケート調査をおこなった

わたしは開講前の時点では、5分くらいの短いコトの動画をつくる、歌をつくる、ポスターをつくるといった表現系のことを念頭においていた。動画をつくるにも歌をつくるにもポスターをつくるにも、事実にもとづく主張でなければならないし、まずは調べなければならない。動画をつくるには撮影や編集についての知識を習得しなければならない。歌なら上手に歌える人をみつけなければならない。調べて技術を習得して人をさがす、そういうことをつうじてエンパワーメントがすすむのだ。

結局、A班B班ともアンケート調査をおこなうことになった。A班は高校生の防災意識について、B班は峡南地域の区長の女性割合について。アンケート調査は手堅い取り組みといえるが、いろいろ考えていくと一筋縄ではいかない。

アンケート調査で気をつけなければならないこと

たとえば質問票。あなたは男ですか女ですかという質問を入れておかないと男女でどう違うかがわからなくなる。年齢を聞かなければ若い人と年配の人の違いがみえなくなる。性別や年代別にクロス集計できなければ困るのである。高校生の調査なら親との比較が欠かせないだろう。区長の性別年齢や選び方や在任年数をきいておかなければ、どんな人が区長になるかが見えてこないだろう。

それにアンケート調査はいろんな属性の人と比較することがたいへん重要だ。同種の調査がすでに存在していればその結果と比較できる。そのためには質問の文言をそろえなければならない。

調査結果をどのように見せるか

だがなにより重要なのは調査対象者との信頼関係であり、調査結果をどのように見せるかである。調査しました、結果は次のようですと報告書をつくるだけではすまないのだ。A班は高等学校に協力を依頼したから高等学校との信頼関係はおろそかにしてはいけないし、B班は区



長会に対して調査結果を報告しなければならない。

成果発表会でB班は調査結果の報告はそこそこにして、パネルディスカッションをおこなった。題して「そろそろ出番ですよ」。会場には地域の区長さんが何人か参加していたし、パネラーの一人は現役区長さんだった。いろんな立

場からの意見が飛び交い、ニュースで報道されたとおり女性区長の割合を高めなければという雰囲気がもりあがった。



大切なのは次のステップ

成果発表会での受講者さんたちの表情には自信があふれていた。やはりみんなで協力してなにかを仕上げると自信がつく。

でも大切なのはこれからだ。次のステップでなにをするか。高校生に調査結果を考えてもらう機会をもうけたり、県外の男女共同参画センターなどで報告したり、いろんなステップが考えられる。ぜひそれをものにしてほしい。

広岡守穂（ひろおかもりほ）さん
中央大学名誉教授。
NPO推進ネット理事長、
佐賀県立女性センター・
アバンセ館長などを歴任。
男女共同参画、NPO支援、
女性の人材育成に長年関わり、
地域のNPO事情や自治体の男女共同参画政策に詳しい。
1990年の著書『男だって子育て』でベストメン賞受賞。
詩や作詞も手がける。

